



新学期が始まって約1か月が経ち、子供たちが新しいお友達と元気に遊ぶ姿が見られるようになってきました。入園や進級などの生活の変化で、お子さんたちは体調を崩しがちな季節です。鼻水や発熱などの初期症状を見逃さないようにしましょう。また、少しずつ日中の暑さも増しているため、熱中症にも注意が必要です。ご家庭でも、水分をこまめに取るようにしていきましょう。



## ◎現在、当園にて急性胃腸炎の園児が増えているため、今月は「急性胃腸炎」についてご紹介いたします。

●【急性胃腸炎】とは…胃や大腸に入ったウイルスや細菌に感染することによって、胃腸の働きを悪化させ、腹痛や嘔吐(おうと)、下痢などの症状を起こすことを指します。(下痢便の色は、白っぽい場合もあります。)

ウイルス性胃腸炎の症状		
ロタウイルス	ノロウイルス	アデノウイルス
<b>主な症状</b> ●下痢と嘔吐の他、発熱を伴い、重症化する場合があります。 ●白色で酸っぱい臭いのする水分を多く含んだ便が1日に何度も出ます。	<b>主な症状</b> ●下痢や嘔吐、吐気(とげ)が主な症状です。軽い発熱が出る場合があります。 ●感染力が強いため、集団感染を起こすことがあります。	<b>主な症状</b> ●発熱、嘔吐、下痢、腹痛などの症状が特徴です。 ●乳幼児期の胃腸炎による発熱は軽症で済む場合が多いです。
<b>激しい嘔吐</b> <b>頻繁な下痢</b>	<b>吐気</b> <b>嘔吐</b>	<b>発熱</b> <b>下痢・腹痛</b>
<b>潜伏期間</b> ●2日～3日(長くても2週間以内)	<b>潜伏期間</b> ●1日～2日(半日程度の場合もあり)	<b>潜伏期間</b> ●5～7日
<b>治療日数</b> ●3日～8日 ●再感染する場合があります。	<b>治療日数</b> ●1日～2日 ●後遺症の心配はありません。	<b>治療日数</b> ●1週間～2週間 ●重症例・急性虫重炎の合併症に注意しましょう。

●対処法としては…

①嘔吐…水分の補給です。急激な下痢や嘔吐で体の水分が大量に失われ、脱水を起こす可能性があるためです。小さな子どもや赤ちゃんは、もともと体に溜めてある水分量も少ないため、一気に脱水が進んでしまうこともあり、危険です。

②発熱…熱が上がりがきるまでは、無理に下げようとせずに、安静にして様子を見てください。寒がるときは、室温を上げ、衣類や布団を増やすなどしてください。暑がったら、衣服等は脱がせてください。

※乳幼児は、発熱が37.5度以上になったら病院へ受診しましょう。

また、40度以上に熱が上がりがそうになった場合は、再度病院受診をしてください。高熱を放置すると、脳症や脳炎を発症することがあります。

無理に食事を取らせたり、一気に大量に水分を与えたりするのは、嘔吐・下痢を必要より多く、繰り返させる原因となります。食欲がある場合は、消化の良い暖かいおかゆやうどんなどを与えるようにしましょう。



<脱水症状のサイン!!>  
 喉の乾き、顔色不良、涙がでない、尿が少ない、意識がもうろうとする等

### 【下痢から感染しないための予防法】

※嘔吐や下痢便のおむつを処理した際にウイルスが手に付着して、いつの間にか口から入り感染してしまう場合があります。

●予防のためには…

- ①家庭用の「塩素系消毒剤」で、嘔吐物・下痢がついて箇所を消毒する。
- ②消毒するときは、「マスク」と「使い捨て手袋」を着用。
- ③汚れた衣類は、塩素系洗剤を薄めた液で消毒してから、他のものと分けて洗濯。
- ④感染している赤ちゃんに触れた後は、手洗いを丁寧にを行う。

### 【看護師より】

★保育園や幼稚園は、集団生活の場なのでどうしても感染症が流行しやすい傾向があります。クラスの半分以上が休み、子どもだけでなく保育士も感染、なんてこともしばしば。今年は新型コロナウイルスの予防も必要ですが、例年流行る感染症にも引き続き注意していきましょう。

★下痢の場合、うんちが正常に戻るまで登園を控えていただいております。お休みがどうしても長くなってしまった場合には病児保育をご活用ください。安心してお子様を預けてお仕事ができます。